
ノール（M） 「『デオフェアリー・ノールと秘密の部屋』

スメル4 『トリメチルアミン』」

一拍の間

ノール（M） 「わたしの名前はノール。どこにでもいる、普通のデオフェアリーなの！この世界から悪いにおいをなくすため、カルモア学園の学生になって、人間の世界を見守っているんだ」

SE…ノックの音。

SE…ガチャ！とドアが開く音。

エリカ 「おはようございます、お姉様！」

ノール(M) 「この、ノールのことを『お姉様』と呼ぶ騒がしい子は、後輩のエリカ。実はデオフェアリー候補生なんだけど、ノールと一緒にカルモア学園で消臭の任務についているんだよね」

ノール 「いえいっ！」

エリカ 「今週も格好が違うって設定ですか、お姉様？ (困惑)」

ノール 「設定って、なに？」

エリカ 「いえ、なんでも」

ノール 「今日は『釣りガール』！」

エリカ 「釣りですか？ なんか、掲示板とかに、たちの悪い書き込みをしたり」

ノール 「そっちの『釣り』じゃないよ！ 今日の服装は

『駄目な人には見えないフィッシングベスト』」

エリカ 「なるほど。ゴムの胴長にフィッシングベストとは、

お姉さま、アングラーですね」

ノール「胴長なんて着てないよ！ ムツゴロウ釣りじゃないん

だから！」

エリカ「いや、そこまでは……フライフィッシングとか、

そっちの方向かと思って言ったんですけど」

ノール「ボーダーのタイツの上に、チェックのマウンテン

シヨーツだよ」

エリカ「なるほど、それも、駄目な人には見えないわけですね？」

ノール「そう、残念ながら見えません」

エリカ「ざんねんですねえ」

一拍の間

ノール「そんなわけで」

エリカ「はい」

ノール「今日の消臭部の活動は……魚釣り」

エリカ「おかしいですよね？」

ノール「おかしくないよ。消臭は精神鍛錬が大切」

エリカ「今まで、そんなことを言ったことありますっけ？」

ノール「つべこべ言わない！ さあ、行くよ！」

エリカ「行くよっていわれても。道具もなにも持ってませんよ？」

ノール「途中で買えばいい。『釣り具キャスティング、錦糸町店』
さんで」

エリカ「ものすごく具体的な店名ですけど、良いんですか!？」

ノール「さあ、『行くぞ、三平君』！」

エリカ「やっぱり昭和ですね、魚紳さん」

ノール「うるさいっ!!」

SE…歩く音 (F・O・)

一拍の間

エリカ「良い天気ですねえ…… (のんびり)」

ノール「……そうだね (不機嫌)」

エリカ「たまには、こういうのも良いですねえ」

ノール「釣れば、もつといいけどね（不機嫌）」

エリカ「どうしたんです、お姉さま？」

ノール「全然、釣れないじゃん！」

エリカ「まだ、10分たつか、たたないかですよ？」

ノール「むー……つまんない！」

エリカ「おねえさま、ぜんぜん精神鍛錬が、できてないじゃないですか!？」

ノール「だいたい！釣りは消臭に関係ないよね!？」

エリカ「なんで、逆切れなんですか!？お姉さまが言い出しっぺですよね！」

ノール「先週の視聴者プレゼントにルアーがあったから、

思いついたんだよね。これなんだけど」

エリカ「お姉さま、勝手にもってきちゃダメですよ！　というか、早く発送して下さい!!」

ノール「でも……ルアーって、釣れるのかなあ？」

エリカ「良いこと考えました、お姉さま」

ノール「なに？」

エリカ「まず、お姉さまが変身して小さくなるんです」

ノール「ふむふむ」

エリカ「で、私のルアーの針にお姉さまの裸エプロンを引っかけて——えいっ！って投げるんですよ」

ノール「ほうほう」

エリカ「そしたら、海の中で泳いでいる魚にお姉さまが

抱きついて捕まえば——バツチリですよ！」

ノール「そっか、それは針に食いつくのを待っているより確実に
フィッシュ・オンだね、って……ばかーっ!!」

エリカ「ダメですかね？」

ノール「だいたい、魚が大きすぎて無理だよ！

『魚も泳ぐ千石風呂』のCMみたいに、おっことし
ちやうって！」

エリカ「おねえさま……それは昭和って言っても、ずいぶんな
昭和ですよね？」

ノール「しかも、関東限定らしいよ。かみじょーに聞いた」

エリカ「話をする必要がありますね。今度、呼び出しましょう。」

屋上かなにかに」

ノール「……釣れないなあ」

エリカ「そもそもこの辺りは何が釣れるんですかね？」

ノール「わかんない」

エリカ「エサ釣りに切り替えますか？」

ノール「え〜！ 虫とかつけるんですしょ？」

エリカ「いや、虫とは限らないんですが……（思案してる風に）」

ノール「……なんか、ノールのことをじっとみてない？」

エリカ「いや……ちようど良いかなあ、って」

ノール「何が!？」

エリカ「……あれ？」

ノール「……ん〜？」

エリカ「なんか、魚臭い。お姉さま……実は、やったんですか？」

ノール「エサになんてなってないよ！ これは……悪臭だよ！」

エリカ「新鮮な魚の磯臭さ……というより、腐った魚のようなにおいですね」

ノール「昔、かみじょーの職場でお土産のかまぼこが、何週間も忘れ去られてエライことになってた——そのにおい！」

エリカ「すぐに分けましょうよ！ 明らかに日持ちしないですよね!?!」

ノール「かまぼこ自体はラップにくるんであったんだけど。腐敗して発生したガスで、ぱんぱんに膨らんだラップの中のかまぼこが、もおね……」

エリカ「やめてください、お姉さま!! (切実)」

ノール「とにかく、そんな不快きわまる悪臭成分……どこかに、トリメチルアミンがあるはずだよ！」

一拍の間

アミ「うふふふ！ よくわかったわね、デオフェアリー！」

SE…それっぽい登場SE

ノール「だれ？」

エリカ「かまぼこの人ですか？」

アミ「わたしは悪臭17人衆のひとり……『トリメチルアミンの

アミ』よっ！」

一拍の間

エリカ「トリメチルアミン！ 『らぶらぶぽっぴんぱんち』を聞

いてるひとはお馴染みの、あの！」

ノール「なんの話？」

エリカ「さあ、ばびっとやっつけちゃいましょう！」

ノール「ねーねー、なんのはなし？」

一拍の間

ア ミ「世界をかぐわしい悪臭で満たす第一歩として、まずは

この学校を腐った魚のにおいで満たしてあげるわ！」

エリカ「もお、お姉さまのせいで、かまぼこのイメージしか浮かばなくなっちゃいましたよ！」

ノール「あ、よく見たら、箱の底の方であじの開きも腐ってたって言ってた」

エリカ「なんで、すぐに分けなかつたんですか!？」

ノール「『みなさんどうぞ』って言われたけど……交代で夏休み取ってて休んでる人がいたからって、係長が言ってたらしい」

エリカ「夏だったんですか!？ 腐るに決まってるじゃないですか!？」

ノール「気がついたのは、秋だったって」

エリカ「もっとダメですよ！」

一拍の間

ア ミ「くそ……よくも、わたしを無視したな！」

ノール「じゃあ、これからやっつける！」

ノール「華麗に変身！ でおどあーっ!!」

SE…変身SE & BGM

ア ミ「なんだと!? 貴様が、あの……」

ノール「見た目はキュートに、中身は本気！ デオフェアリー・

ノール！」

一拍の間

エリカ「今日こそは、水着じゃないんですか？（不満げ）」

ノール「ないよ！ そもそもスク水なんて持ってないから」

エリカ「いや、『釣りガール』で検索すると、ヒモのビキニ着てる画像がヒットしますよ」

ノール「そんなの放送できないでしょ！」

エリカ「広告設定はR18だから、大丈夫ですって」

ノール「ノールが大丈夫じゃない〜！」

エリカ「個人的には画像検索でヒットした『ビキニ・アイス・

フィッシング・チーム』っていうのが、気になりますね」

ノール「ビキニで雪上ワカサギ釣り禁止！」

エリカ「そんなわけで、『ビキニフィッシングノールお姉様』の

イラストを募集します！ 参考までに、お姉さまの

スリーサイズは『つる・ぺた・ろり』です」

ノール「募集しないよ!! っていうか、サイズじゃないよね、

それは!？」

一拍の間

ア ミ「おしゃべりはここまでだ！」

エリカ「ほら、怒られましたよ、お姉さま」

エリカ「エリカが悪いんだよ！」

ア ミ「いくぞっ！……ゴミ箱のニオイを、臭塗ッ!!」

SE・・臭塗っぽいSE

ノール「うわ、小田原みやげのかまぼこが腐ったにおいだ〜！」

エリカ「具体的な地名は避けて下さい、お姉さま!!」

ノール「白い部分がね、全部緑や青に……」

エリカ「その話はやめましょう、お姉さま!!」

ノール「もお、許さない！ エリカ、いけー!!」

エリカ「さすがに、この流れはお姉さまがいかなきゃダメですよ

ね!?!」

ノール「つべこべ言わない！ におい一つ残すなー！」

エリカ「もー、わかりました！」

エリカ「らぶらぶ・ぼっぴんぱんっー!!」

SE…霸王翔吼拳の炸裂音

ア ミ 「ぐはあ!？」

エリカ 「どうだあ!？」

ノール 「こらーっ!! スプレー缶握りしめて、霸王翔吼拳で相手を
ふっとばすの禁止っ!!」

エリカ 「悪臭が相手なら『らぶらぶぽっぴんぱんち』を使わざる
を得ません」

ノール 「スプレー持ってるの、意味ないよね？」

一拍の間

ア ミ 「だめ…だめなの」

ノール 「なんか、ダメみたいだよエリカ？」

エリカ 「ここで世間の厳しさを教えるべく、お姉様がトドメを！」

ノール「なんか引つかかるけど……いくぞー！」

一拍の間

ノール「らぶらぶ・ぽっぴんぱんちーっ!!」

SE：らぶらぶ・ぽっぴんぱんちのSE

アミ「うわー、だめだー!!（棒読み）」

SE：悪臭退散のSE

ノール「どやあっ!?!」

エリカ「今日も完璧ですね、お姉さま」

ノール「うん、バッチリだよ」

エリカ「これで、落ち着いて釣りに専念できますね」

ノール「そうだ……このままじゃ坊主になっちゃうよ」

一拍の間

バスメル「おお！ノールちゃんじゃないか!？」

ノール「ひゃいっ!？」

バスメル「今日は会えないと思ってたけど……やはり、運命が！」

一拍の間

ノール「なに、クサイ台詞から逃れられない運命？」

エリカ「なんだか、必須イベントになってきましたねえ……」

ノール（M）「そんなわけでえ……（やる気なさそうに）」

ノール（M）「この、いつも通り、外見だけは二枚目の、キラキ

ラお兄ちゃんは『バスメル王子』」

ノール（M）「いつも、ノールの苦手なクサイ台詞で告白してく

るんだけど……そういうの、苦手なんだよね」

バスメル 「『キミのことが大好き選手権』があつたら、ボクは

世界チャンピオンだ」

ノール 「やっぱり、王子は馬鹿なのかな？」

エリカ 「素で聞かないでください。 逆に返答しにくいです、

お姉さま」

バスメル 「釣りをしているのかい？」

ノール 「みての通りです（そっけなく）」

バスメル 「キミという釣り針なら、すぐさま僕のハートは

フィットシュオンさ」

ノール 「キャッチ・アンド・リリースの精神は大切だと思っ」

エリカ 「変な物リリースしないで下さい！ 生態系が乱れます！」

SE・・携帯のバイブ音

バスメル 「……ああ、すまない。行かなければいけないなくなって

しまったようだ」

ノール 「そうですね、ではごきげんよう（棒読み）」

バスメル「これから、僕のクルーザーでクルージングするのだけ

ど、良かったらどうだい？」

ノール「……なに、優勝賞金でも貰ったの？」

エリカ「お金持ちですねえ」

バスメル「遠慮はいらないよ、まだたくさん乗れるからね」

ノール「かみじょーが『釣り船ならバッチリだけど、クルーザー

の中なんて、乗ったことないから描写できない』って

言ってるから、帰る」

エリカ「そんな断り文句、ありますか」

バスメル「そうか……では、仕方がないね」

エリカ「仕方ないんだ」

バスメル「では、またあおう！ 恋のアングラー!!」

SE…歩く音 (F・O・)

ノール「くそー、かねもちめく……」

エリカ「とりあえず、帰りましょうかお姉さま」

ノール「結局、坊主だよ……」

エリカ「『坊主、丸坊主』ってヤツですね」

ノール「ですね、じゃないよ！ それじゃ、意味が通じない！」

エリカ「では、かえりませよー！」

ノール「うん、帰ったら、部屋の物置片付けよう」

エリカ「はーい」

ノール「かまぼこ出てきたら大変」

エリカ「やめてください！」

SE…歩く音 (F・O・)

一拍の間

エリカ (N) 「こうして、トリメチルアミンは消臭された」

エリカ (N) 「しかし、これで終わりではない」

エリカ (N) 「ゴミ箱においては多彩。まだまだ悪臭のものは

いくらかでも潜んでいる」

エリカ (N) 「結局、そのかまぼこはドコに捨てたのか？」

あじの開きはどんなことになっていたのか？」

エリカ (N) 「デオフェアリー・ノールの、消臭は終わらない…」

一拍の間

エリカ (N) 「漂う悪臭を、なんとする」

エリカ (N) 「芳香剤では、ごまかしきれぬ」

エリカ (N) 「換気扇でも、どうにもならぬ」

エリカ (N) 「マイクログルで、消臭する」

エリカ (N) 「また、来週も…」

ノール (N) 「『デオ・デオドアー！』」

おわり。